

社会科 navi

日文教育資料 [中学校社会]

2015
増刊

発展するクウェートの市街地



クウェート便り  vol. 1 辻原 恵里子
イスラム社会における
人々の生活  衣服編



経済を支える製油所(積出港)

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索

 未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

クウェート便り

vol. 1

イスラム社会における人々の生活

衣服編

辻原 恵里子

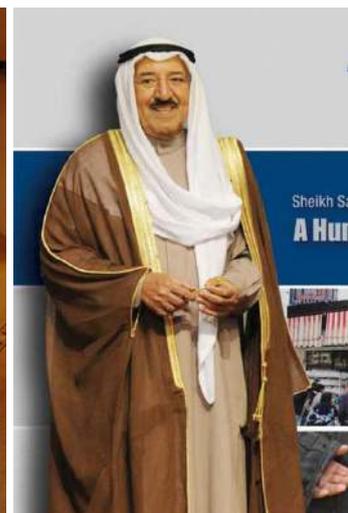


図1・2 ディスターシャを着るクウェートの男性

図3 ザバーハ首長

クウェートからのご挨拶

2年余り前、夫がクウェートの日本大使館に勤務する事になり、私も一緒に生まれて初めて中東、イスラムの国に行く事になりました。クウェートの正しい位置を地図で思わず確認したほどで、「産油国でお金持ち、イラク侵攻、砂漠の中の暑い国」という程度の知識しかなかったのですが、新しい環境での生活にわくわくしました。

中東での暮らしから見えたり感じたりするものを、近況報告として家族や友達に、「クウェート便り」として送っていました。それがご縁あって、来年度から発行される日本文教出版の地理教科書に一部が掲載される事になり嬉しく思っています。今回は、教科書には書ききれなかったことを、こちらにまとめてみたいと思います。

男性の民族衣装「ディスターシャ」

床まである白いワンピースのような服装が、男性の民族衣装「ディスターシャ (distasha)」です (図1・2)。「オバケのQ太郎」のような格好、あるいは「アラビアのロレンスがハリス族の族長から贈られて着ていた白い

衣装」といえば想像がつくでしょうか。フォーマルであり、カジュアルであり、通勤着でもある、大変便利な服装です。こちらに来てその良さ、素敵さを感じました。アラブ人の顔立ちにとっても似合っていますし、優雅で皆がアラブの王様のように見えます。

ディスターシャは長袖、床までの長さです。湾岸諸国でもデザインが多少違いますが、クウェートはボタンダウン。ボタンがウエストあたりまで付きます。夏は白かアイボリー、短い冬にはグレー・茶・青など色つきのディスターシャを着る人もいます。素材も冬はウール混紡になります。

両脇には大きなポケットがあり、そこには携帯電話、財布、ミズバハ (Misbaah) というお祈りに使う数珠などを入れてあります。ディスターシャの下には、半袖の白いシャツとステテコのような Cotton のズボンを着用します。

結婚式や式典などのとてもフォーマルな時には、白いディスターシャの上に、ビシュト (Bisht) というお坊さんの袈裟のような、透けた黒いコートのような衣装を着ます (図3)。金色の糸で縁取りされていて豪華です。

クウェートの男性はディスターシャを誇らしげに着ているように見えます。



図4・5 アバヤを着るクウェートの女性



図6 アバヤショップ



図7 アバヤ専用洗剤

女性の民族衣装「アバヤ」

多くのクウェートの女性は「アバヤ (Abaya)」という頭から床までの黒いコートのようなドレスを着ています (図4・5)。男性のディスターシャには宗教的意味合いはないのですが、アバヤは宗教的意味合いを含みます。コーランでは、女性は人前 (男性のいる前) では顔と手以外は出していけないことになっています。体型を隠し、髪の毛、手首、足首、首筋を覆うゆったりした服装がアバヤなのです。

アバヤは長袖で、黒いワンピースコートのようなものです。自宅に帰ると脱ぐので、下には普通に服を着ています。古いスタイルでは頭から (頭巾から) つながっていたのですが、今は頭にかぶるヒジャブ (スカーフ) と別になっているものを多く見かけます。綿とポリエステル混紡のようで、シワがよらないやわらかい素材です。アバヤは黒地がほとんどですが、刺繍がされていたり、縁取りがされていたりするなど、ファッション性もあります。アバヤショップには、様々なデザインのアバヤが並んでいます (図6)。

スーパーマーケットの洗剤売り場にはアバヤ専用洗剤

ヒジャブ (Hejab)



宗教的には人前では肌や髪の毛を出してはならないことから、西洋風の服装の女性でも、ヒジャブというスカーフを頭に巻いている人が少なくありません。色は黒だけではなく、服装に合わせてカラフルにコーディネートしています。ヒジャブの下には髪の毛が出ないようにニットのキャップをかぶっています。

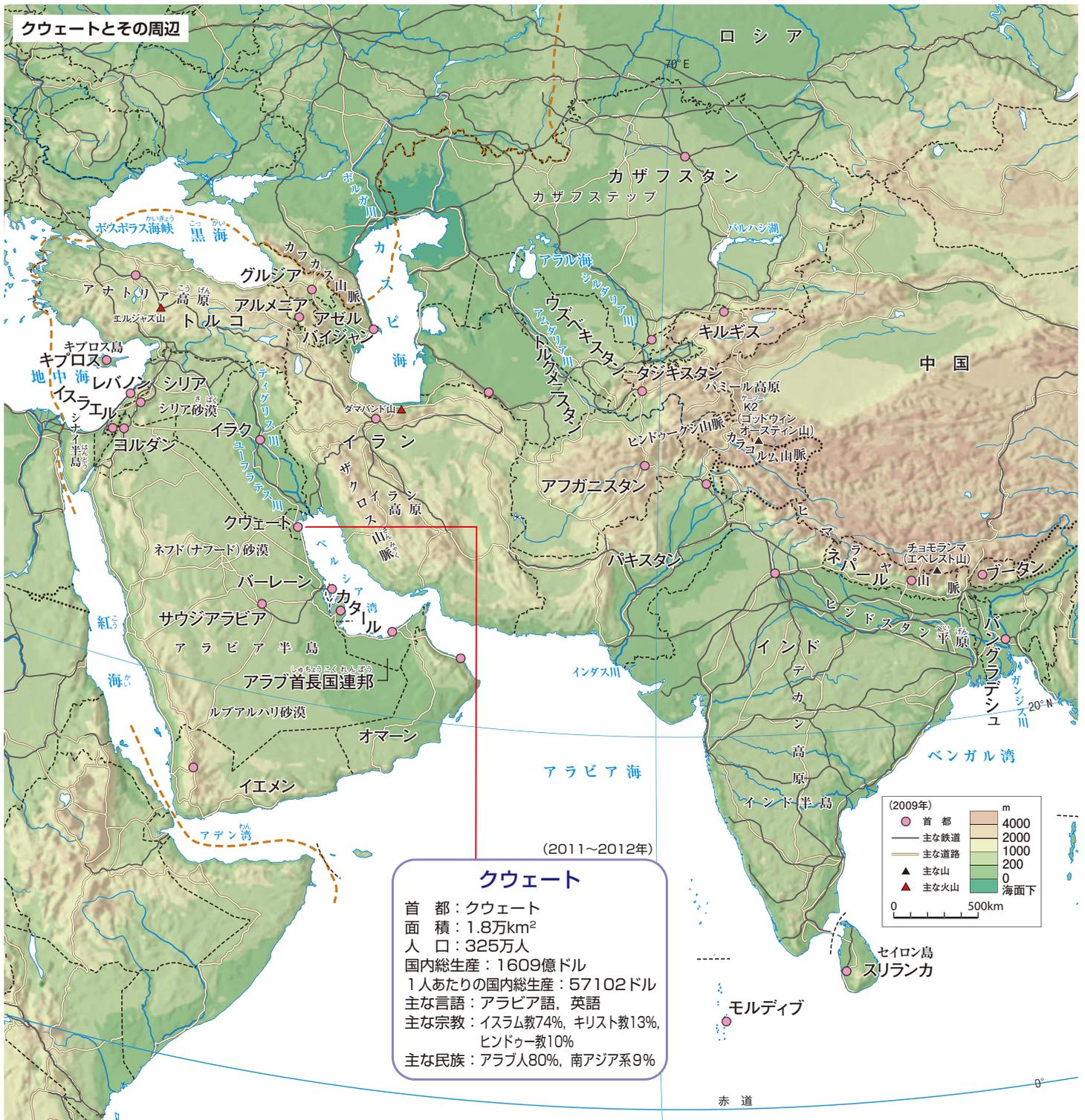
ヒジャブを着用するのは、子どもから大人になった日からだそうです。

も並んでいます (図7)。黒い色が落ちない特別なおしゃれ用の洗剤のようです。

サウジアラビアではすべての女性、外国人女性にも黒いアバヤとスカーフの着用が義務付けられていますが、クウェートでは女性の服装は自由で、我々外国人に強制されることはないですし、西洋人と変わらぬ服装をしているクウェート人女性も少なくありません。家族 (一族) での縛りもあると聞きますが、着るか着ないかの判断は個人にゆだねられるので、家族の女性皆がアバヤを着用していても1人だけ西洋スタイルという人もいます。アバヤを着ているから信仰心が強いというわけでも決してないそうです。

アバヤは我々からすると、お洒落度を押さえ込んで不便そうにも見えるのですが、そうではなく、多くの女性は誇らしく着ているようです。それゆえ、小さな子どもたちは早く大人になってアバヤを着たいと思っているのだそうです。

「クウェート便り」は、第2回以降、社会科navi本誌で連載いたします。多文化共生、国際理解に関する教材としてご活用ください。



社会科 *navi* 2015 増刊

日文教育資料[中学校社会]

平成27年(2015年)9月30日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
 TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33291

日本文教出版 株式会社

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
 TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
 TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
 TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
 TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
 TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690